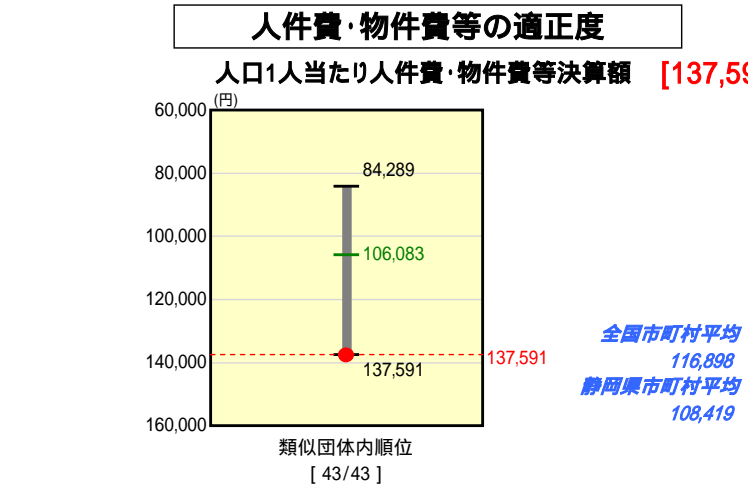
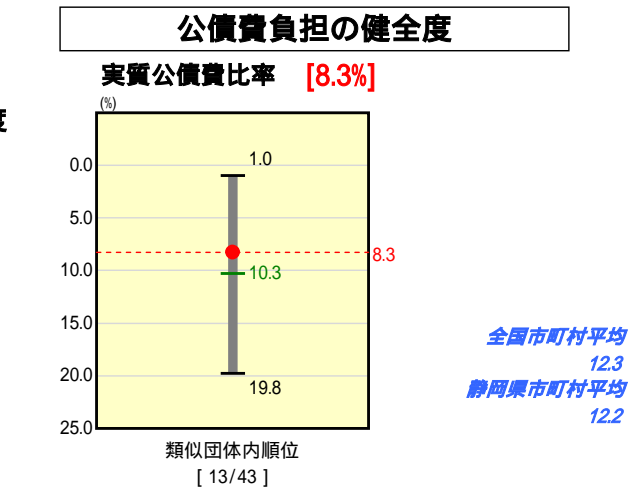
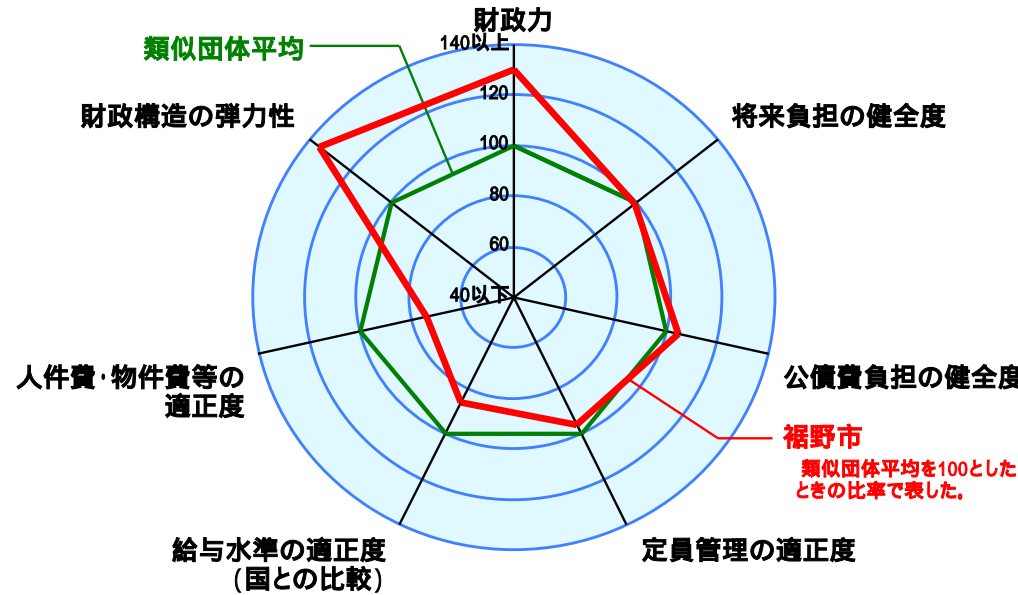
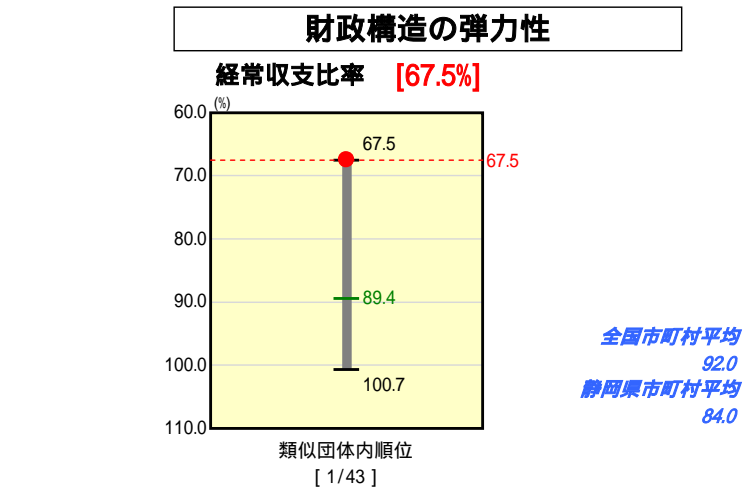
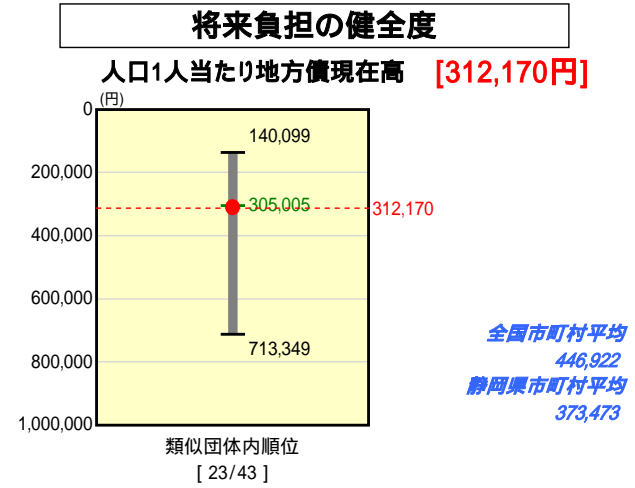
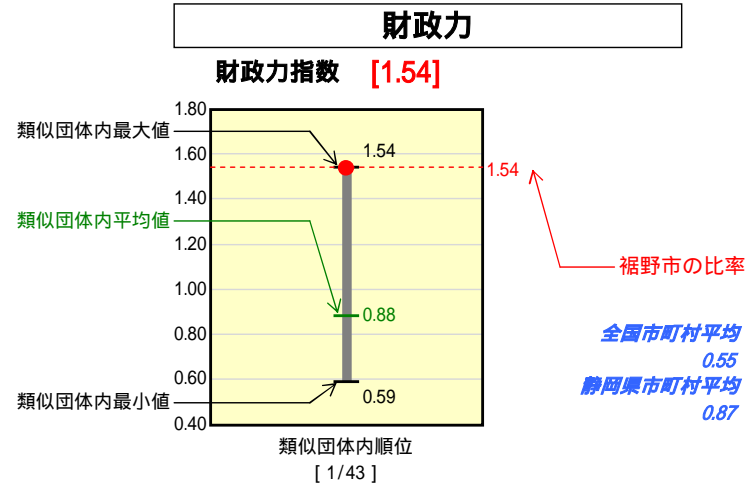


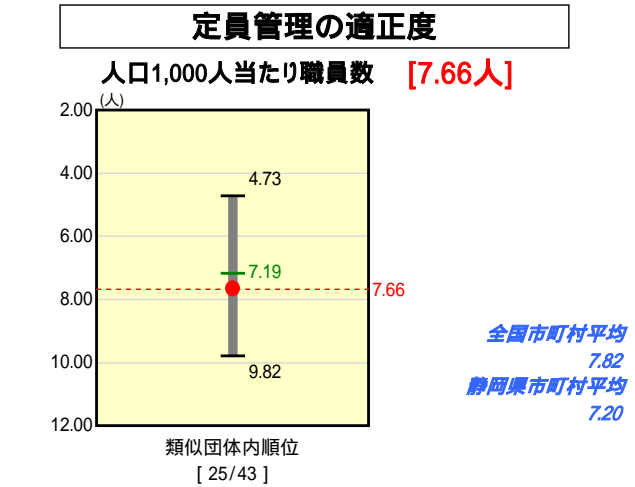
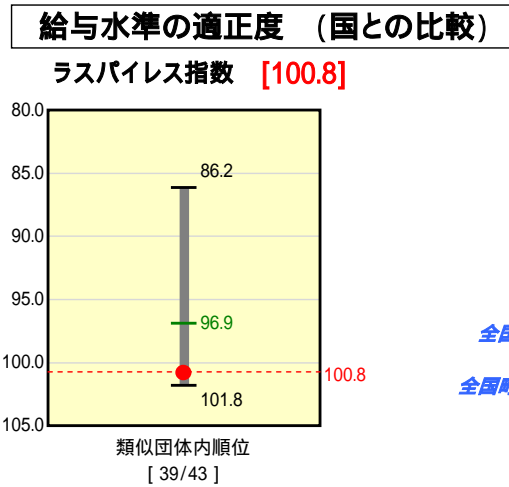
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

静岡県 裾野市

人口	53,267人	(H20.3.31現在)
面積	138.39	km ²
歳入総額	21,674,936	千円
歳出総額	20,537,210	千円
実質収支	908,719	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイルズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年度地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



分析欄

財政力指数: 市内の大手企業の経営状況の良好等により、類似団体を上回る税収があるため財政力指数が1.54と類似団体内最大値となっている。市北部に新工業団地を造成し、新たな企業誘致を図ることにより更なる財源確保に努めているが、今後は景気後退による税収減により数値の低下が見込まれる。

経常収支比率: 現時点においては、類似団体内平均値に比して良好な状況であるが、今後、福祉関係経費等の増加により数値の上昇が予想される。このため、全ての事業について事務事業評価による事業の見直しを図ることにより経常経費の削減に努めている。

実質公債費比率: 現在は8.3%と類似団体の中でも低い数値となっている。大規模事業等や新規事業は、今後とも緊急度・住民ニーズを的確に把握した事業の選択により起債に大きく頼ることのない財政運営に努めるため、比率については現状よりも低下していくものと見込まれる。

人口1人当たり地方債現在高: 類似団体の中で平均値に近い金額となっている。今後とも事業の選択を行い、地方債現在高の適正規模の維持に努める。

ラスパイルズ指数: 指数が高めであるが、国における給与構造改革への対応とともに、人事考課制度導入に向け、年功序列的な昇給の見直しを行い、職務職責や勤務実態に応じた地方分権時代にふさわしい給与制度の確立を目指していく。また、定員適正化計画の推進とともに、各種手当の適正化、人件費の縮減に努める。

人口1,000人当たり職員数: 当市には広域的な地域性による独自の要件もあるため、市民サービスの適正化を考慮しつつ今後も、民間委託の推進、事務事業の見直し等を積極的に行い、適正化計画の推進に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額: 類似団体平均を大幅に上回っている主な要因は、消防・救急業務、ごみ処理業務の直営、教育充実のため小学校低学年多人数級対応の補助講師や小中学校への外国語指導補助講師などの配置、小学校給食の単独調理、待機児童ゼロを図るため公立による保育園・幼稚園の園児入所措置など積極的に行なっているため職員の人件費や物件費である賃金・施設運営管理経費などが多いことによる。平成19年度から市民文化センター、ヘルシーパーク裾野の管理運営を指定管理者に委託し、また、人事考課制度の導入、職員の削減のほか行政評価を活用し事務事業の見直しを進める。

人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。